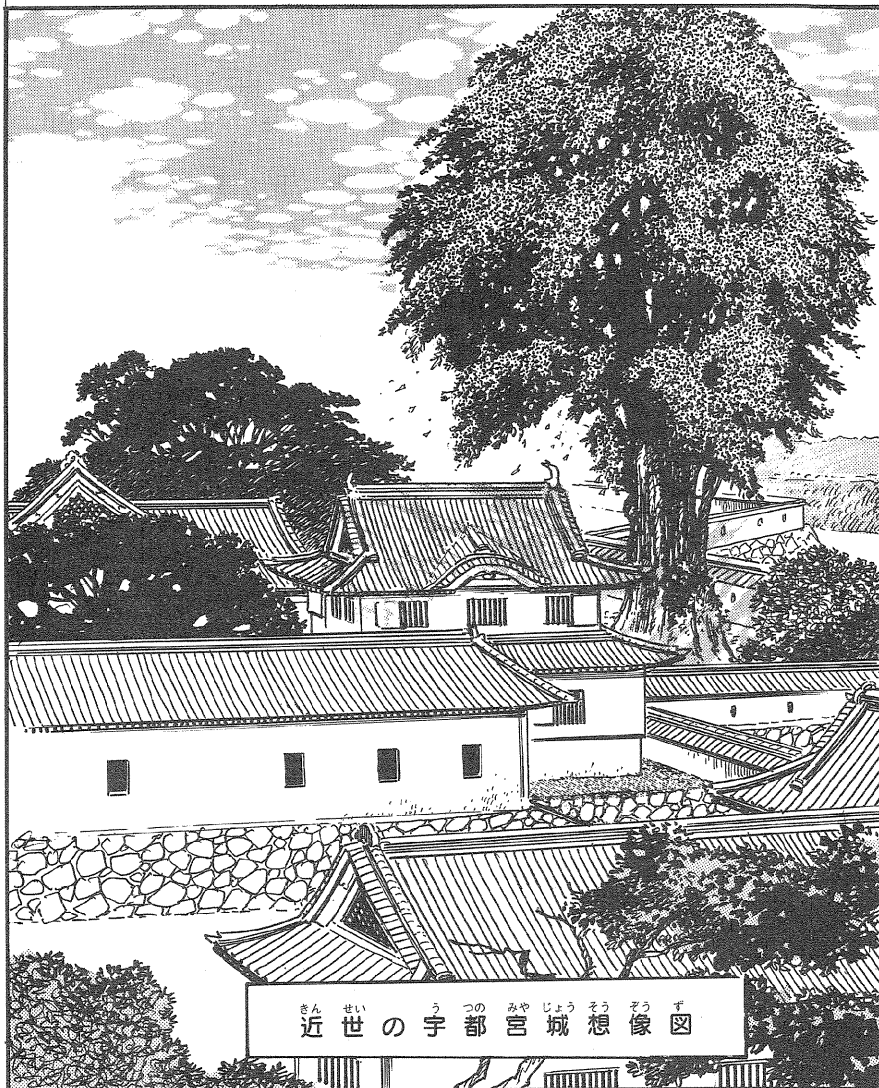
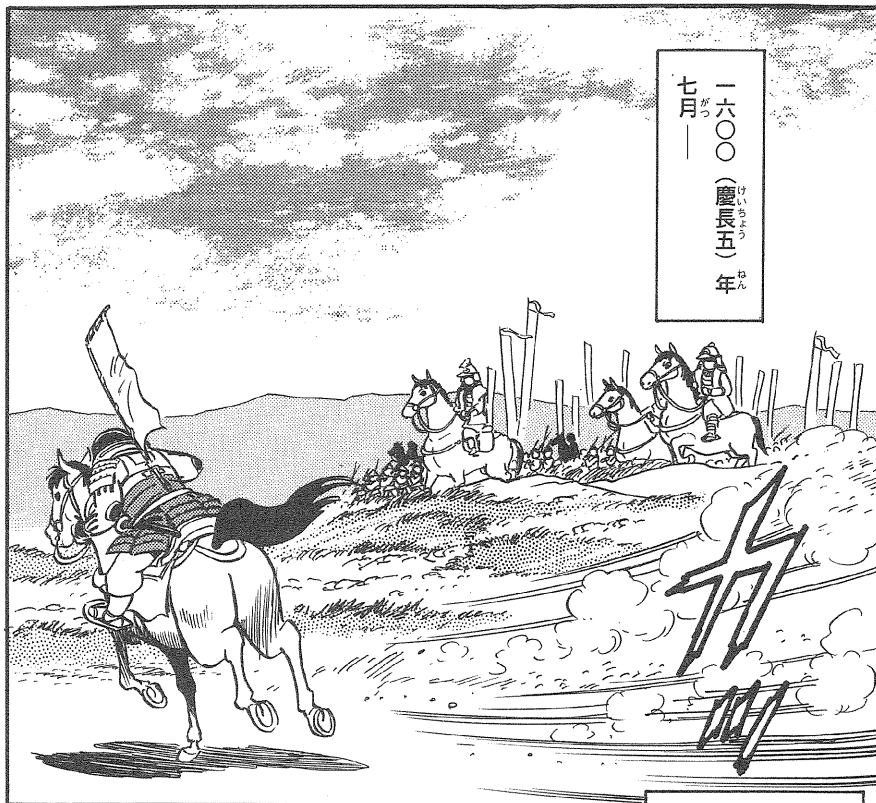


だい しょう きん せい
第三章・近 世



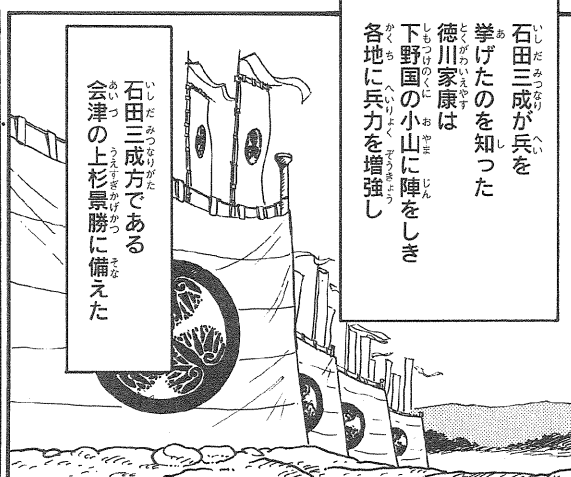
きん せい う つの みや じょう そう ぞう ず
近世の宇都宮城想像図



一六〇〇（慶長五）年
七月



近世の案内役は
いったいどこに
いるのかな…？



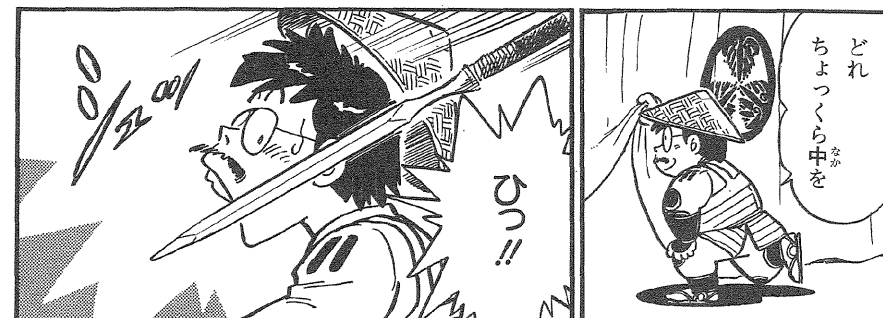
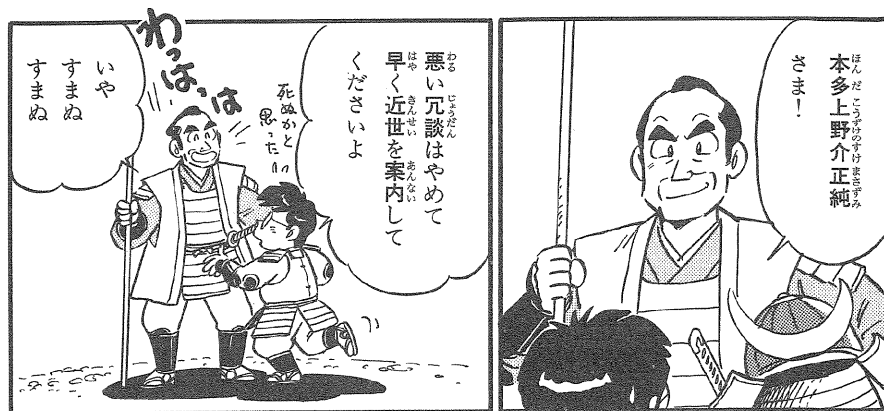
石田三成方である
会津の上杉景勝に備えた

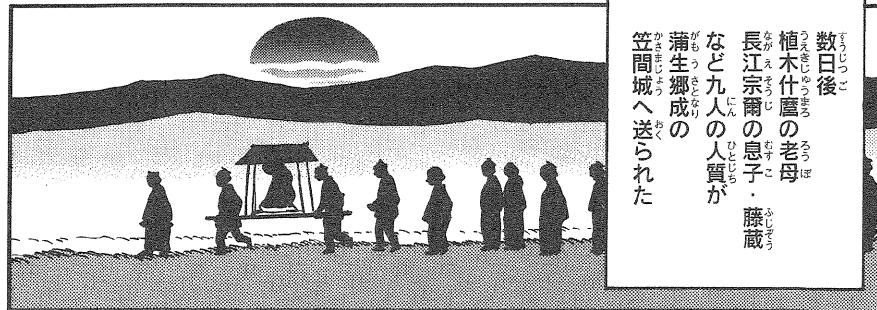
石田三成が兵を
挙げたのを知った
徳川家康は
下野国の小山に陣をしき
各地に兵力を増強し



豊臣秀吉が亡くなり
徳川家康の立場が強まるにつれ
石田三成や上杉景勝らとの対立は
次第に深まっていた

上杉景勝は石田三成とはかり
会津城を固めたが
それを警戒した家康は
景勝に京都に上るよう求めた
しかし景勝はこれを拒否
このため家康は会津攻撃を
決意した





数日後
植木什屋の老母
長江宗爾の息子・藤蔵
など九人の人質が
蒲生郷成の
笠間城へ送られた



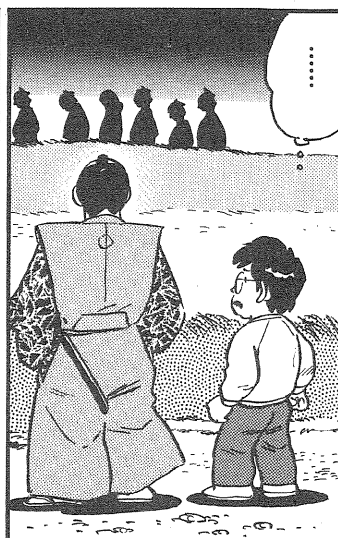
町年寄って
現代なら
市会議員か
自治会長といった
ところですよ？
効果はあったん
ですかね
あなどるもの
ではない！



現代と江戸時代では
行政のしくみが
まるで違う
自治組織
そのものが簡略で
町年寄の力は
なかなかのもの
だったのじゃ



なるほど……
そのうえ
宇都宮氏は
たいした罪もないまま
取り潰しに
あっていますからね
旧臣たちもただでは
おさまらない……



うむ
けど町年寄から人質を
とらなければならぬほど
当時の下野国の情勢は
不安だったんですか？
なにしろ
石田方の上杉景勝と
領地を接する最前線
じゃったからな



では
宇都宮城下の
町年寄衆から
人質を差し出さ
せよ！
かしこまり
ました！



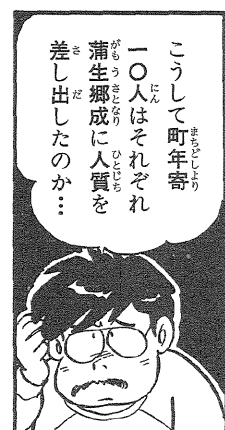
……
そうか……早く
手を打たんと
いかな



主君蒲生秀行の
ご命令である！
蒲生氏の重臣・常陸笠間城二万石
蒲生源左衛門郷成



ただちに
宇都宮城に
町年寄衆一〇人が
呼びつけられた

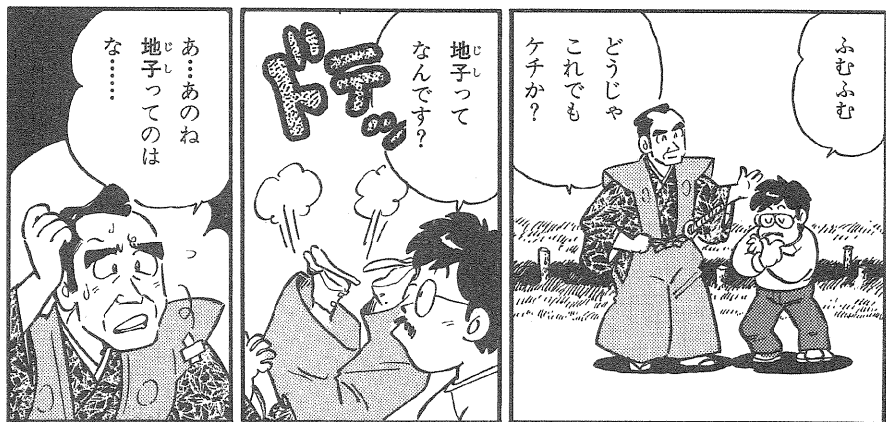
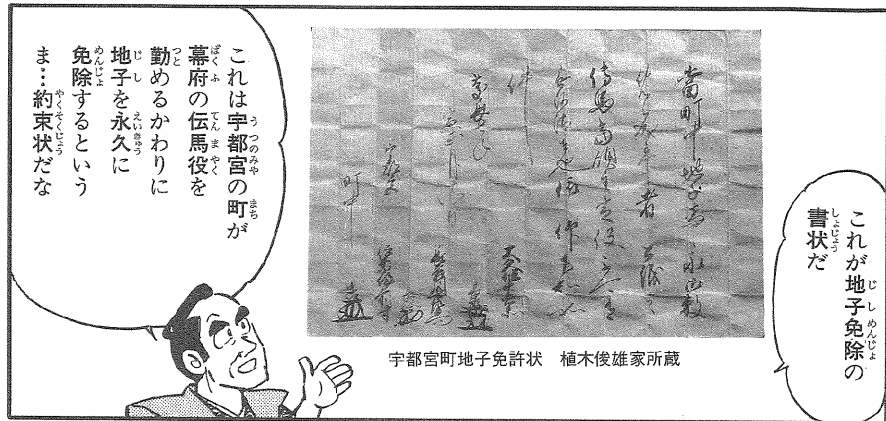
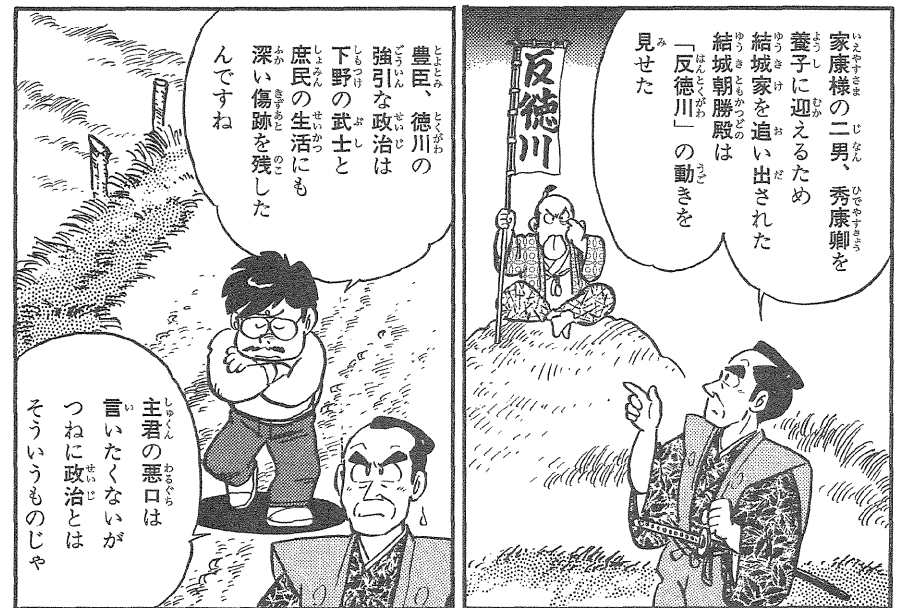


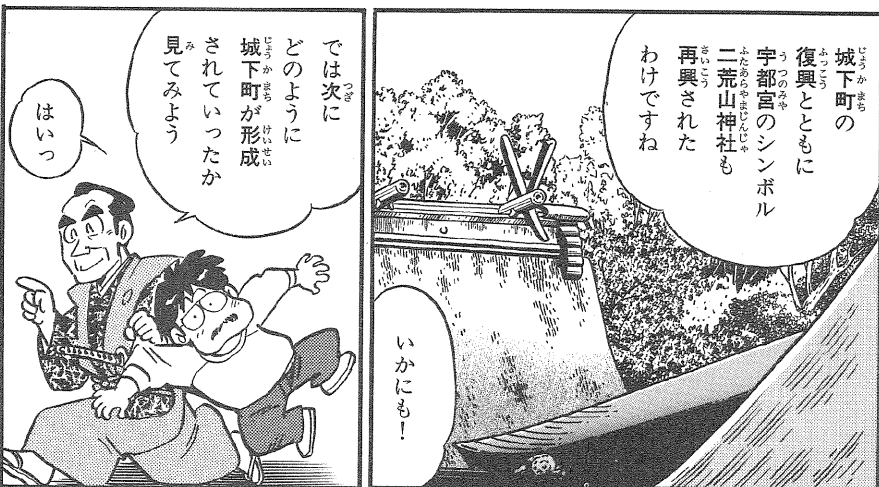
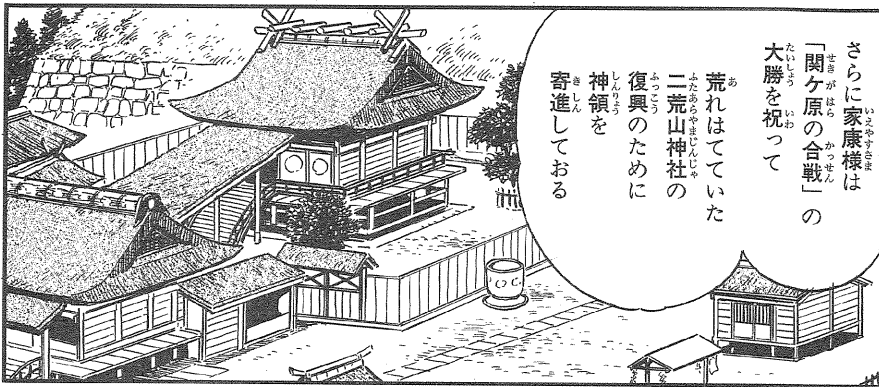
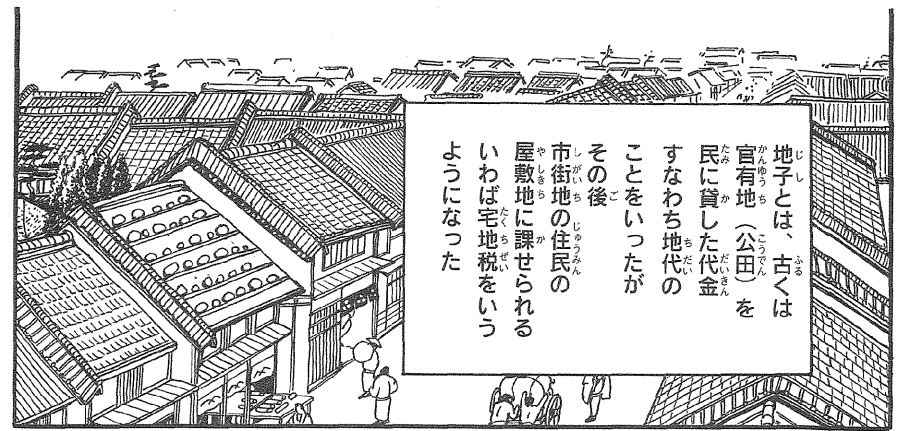
こうして町年寄
一〇人はそれぞれ
蒲生郷成に人質を
差し出したのか……

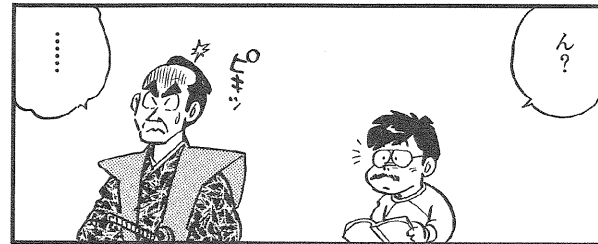
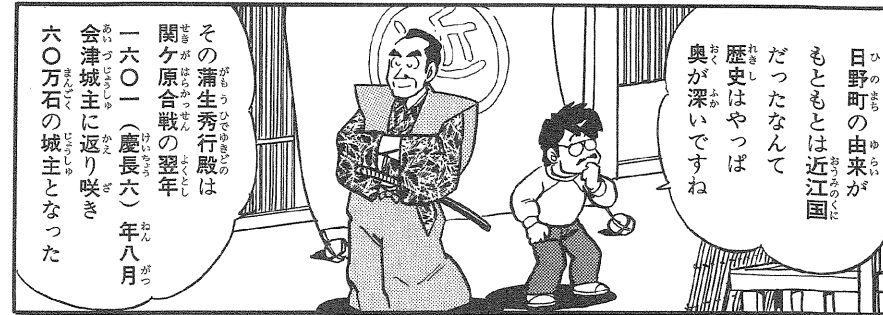
一、合戦の時には出火に
くれぐれも注意をすること
商売は自由に行つてよいが
不当な値段をつけてはいけない
二、町年寄衆は人質を差し出すこと
会津の上杉景勝征伐に際しては
道案内の者を出すこと

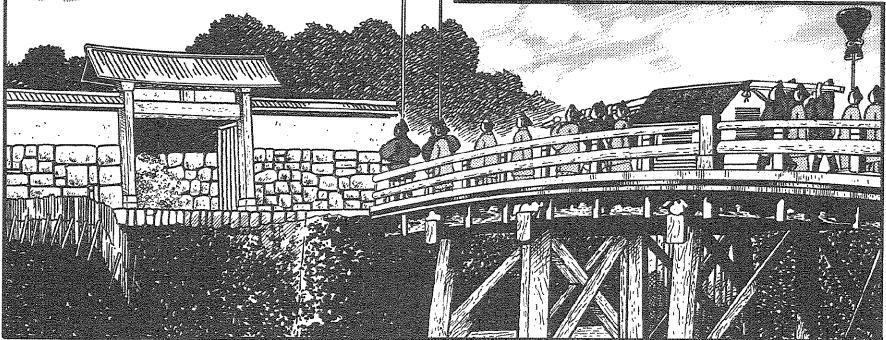
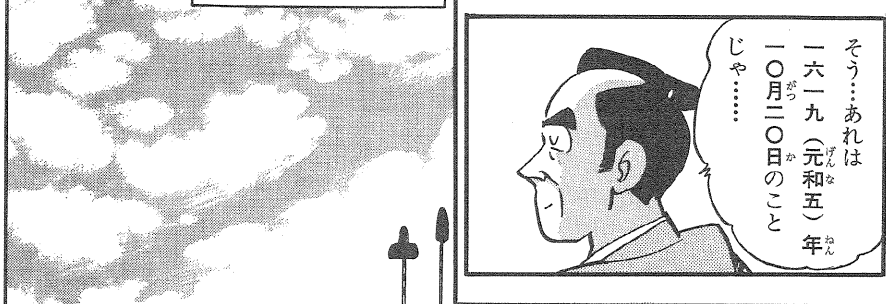
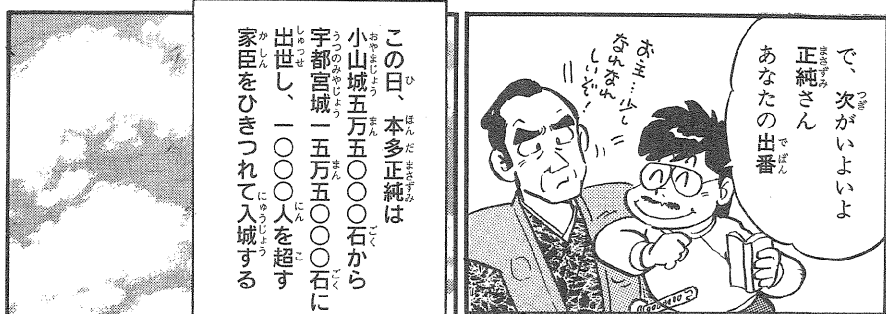


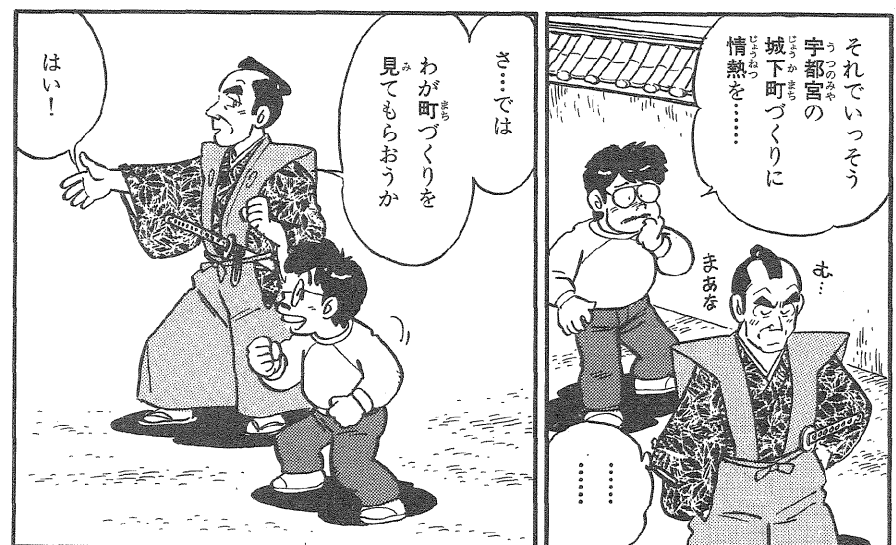
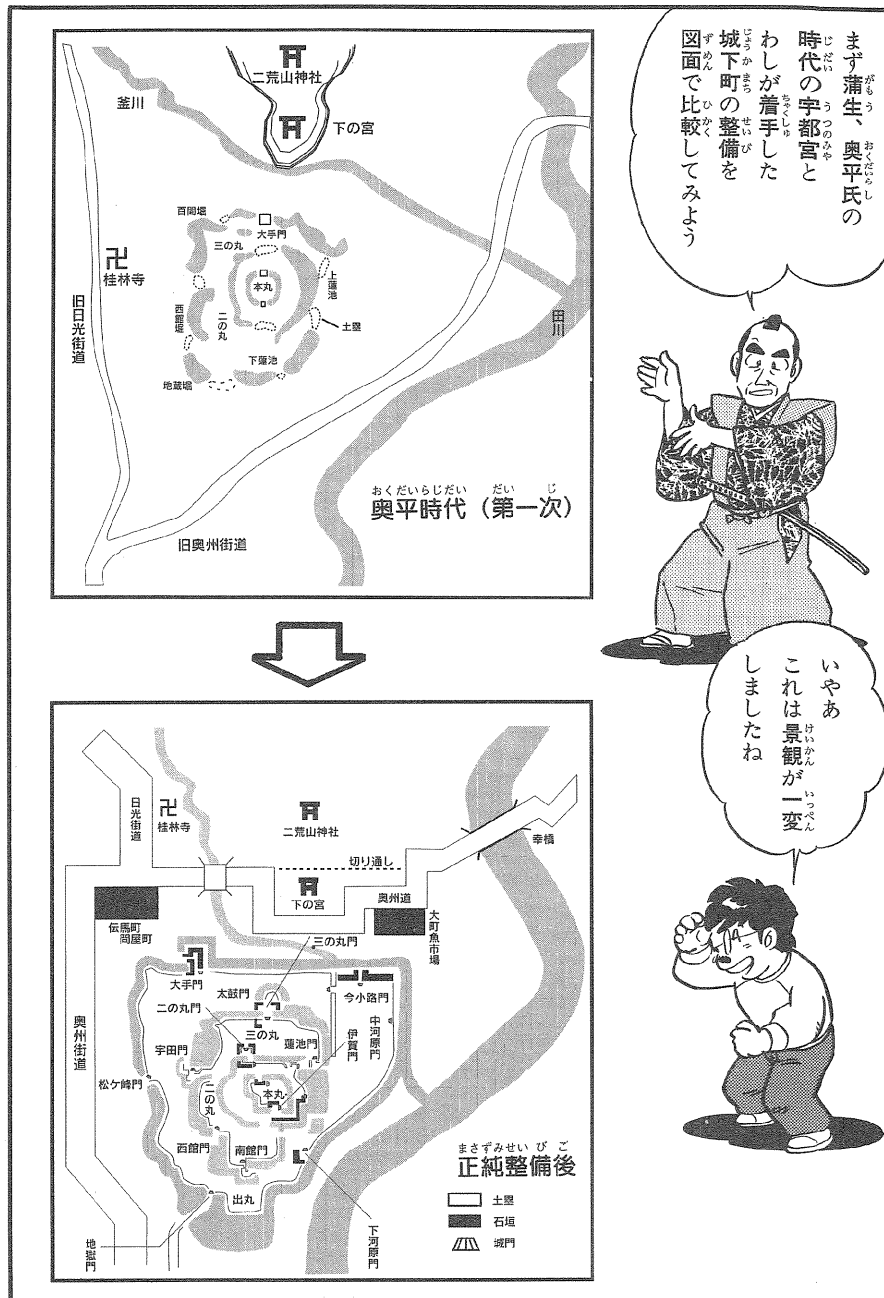
このときのお達しが
これですね
うむ

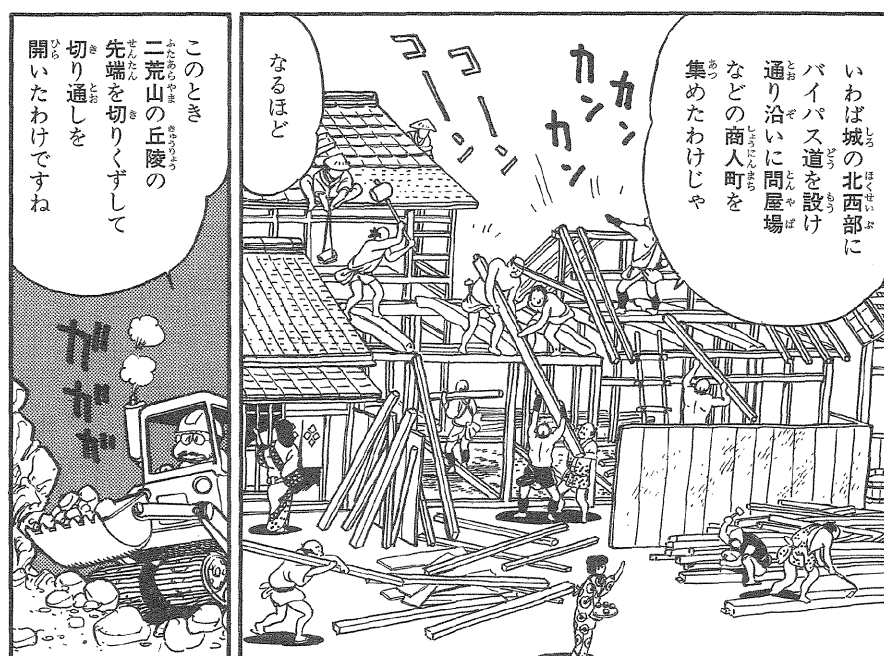
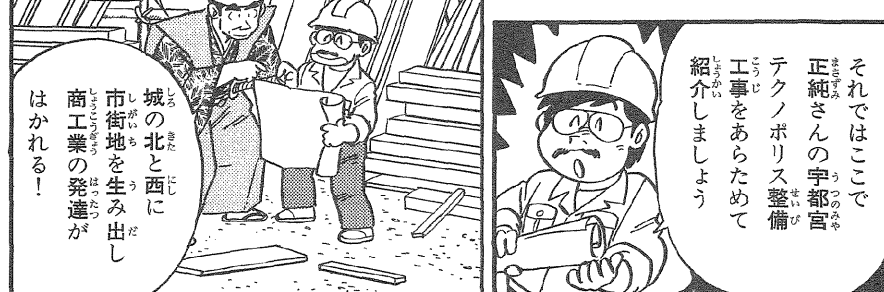
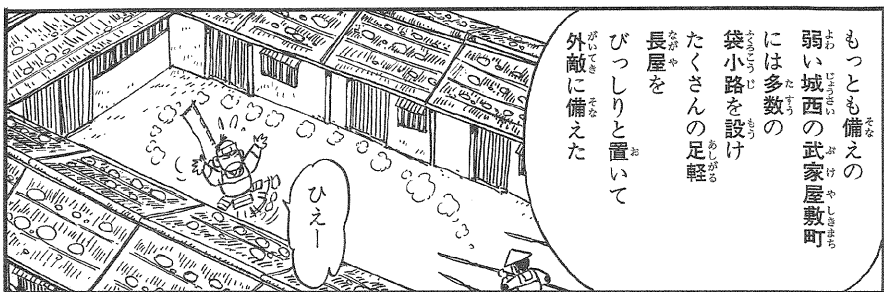






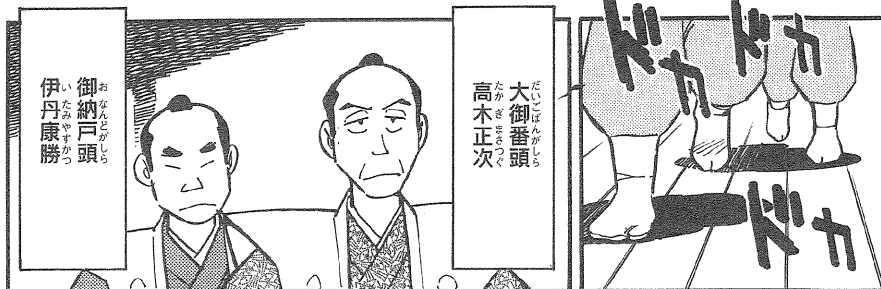






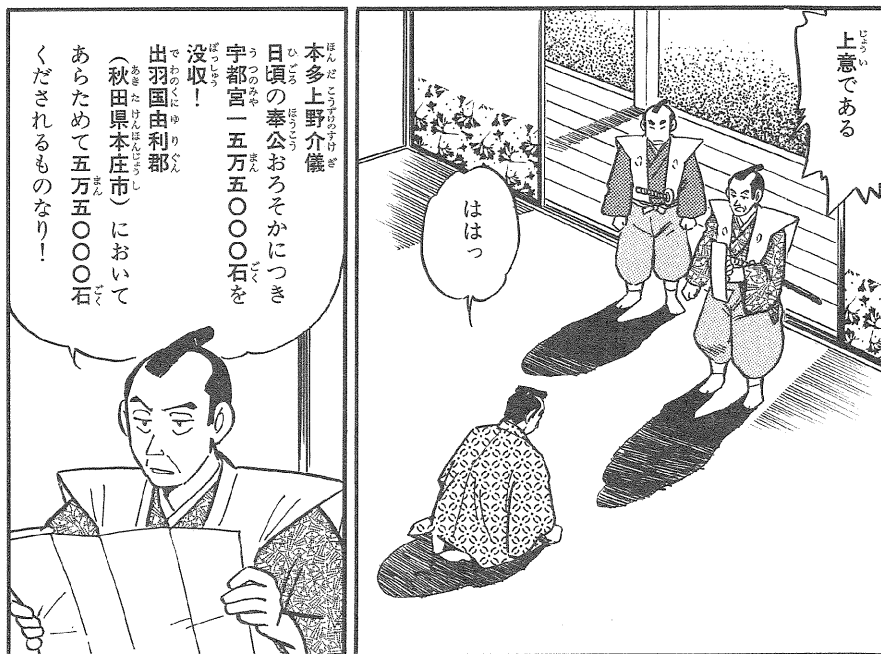
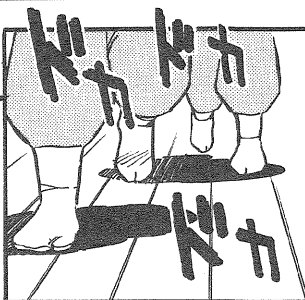


上使とな？
いったい何事が
…!?
とにかく
お通し申せ

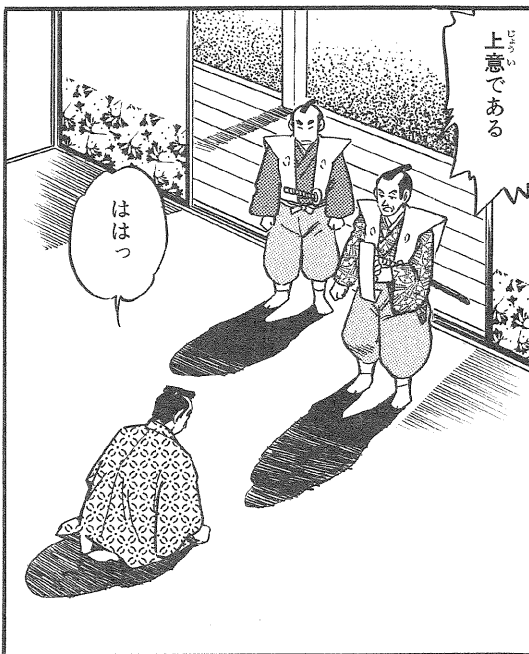


御納戸頭
伊丹康勝

大御番頭
高木正次



本多上野介儀
日頃の奉公おろそかにつき
宇都宮一五五〇〇石を
没収！
出羽国由利郡
(秋田県本庄市)において
あらためて五万五〇〇石
くだされるものなり！



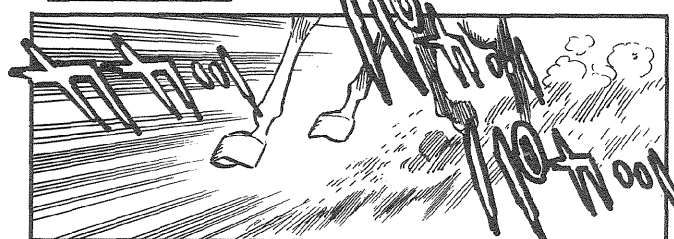
上意である

ははっ

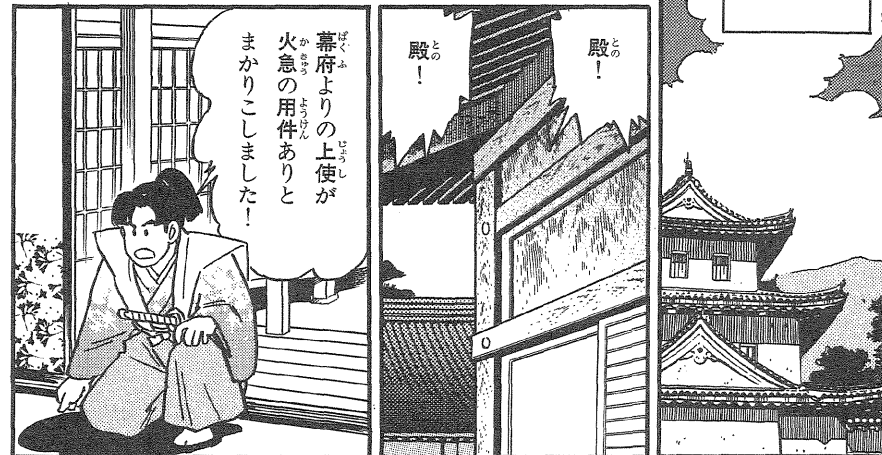


一六三二(元和八)年八月
出羽(山形県)山形城
五七万石の最上義俊が
家臣間の争いが原因で取りつぶされた

正統は、常陸の笠間城主
永井直勝とともに
城受け取りの役を
命じられた



そして山形城の
明け渡しは無事に
終わったのだが！

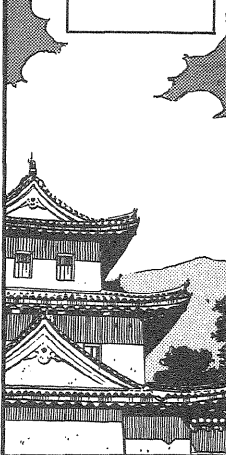


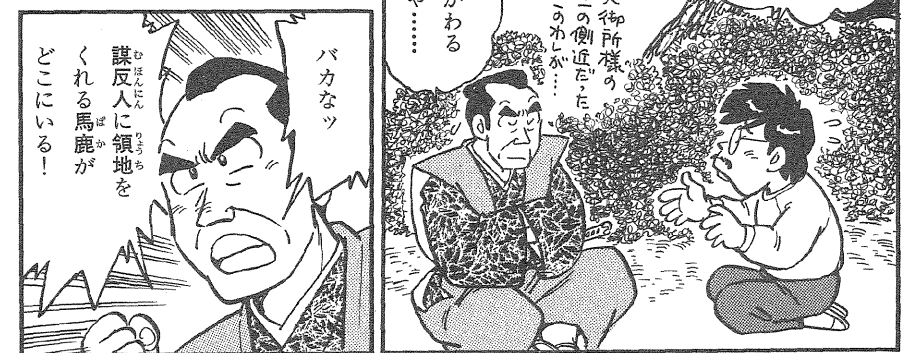
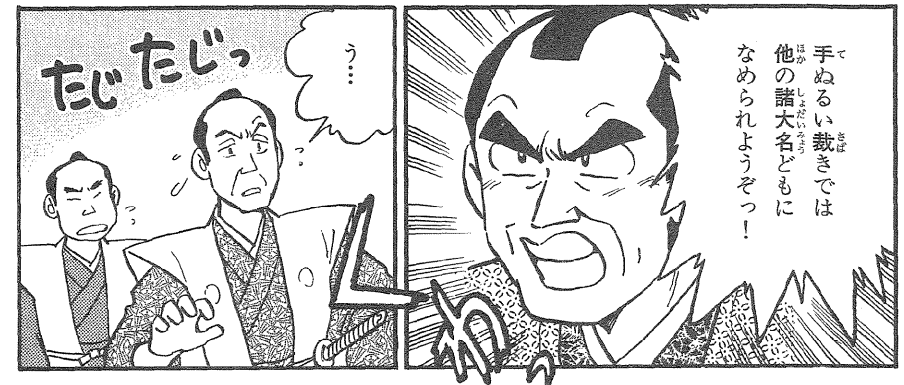
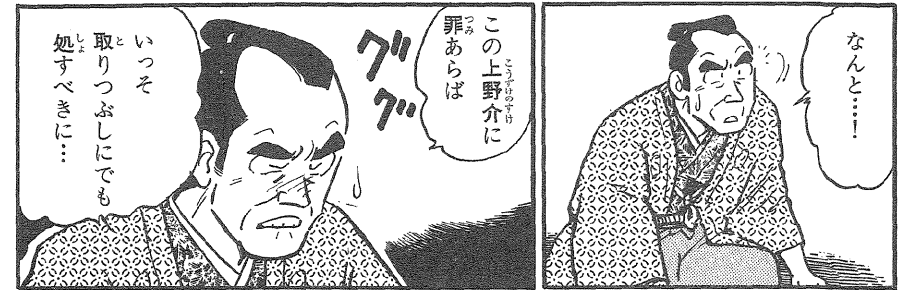
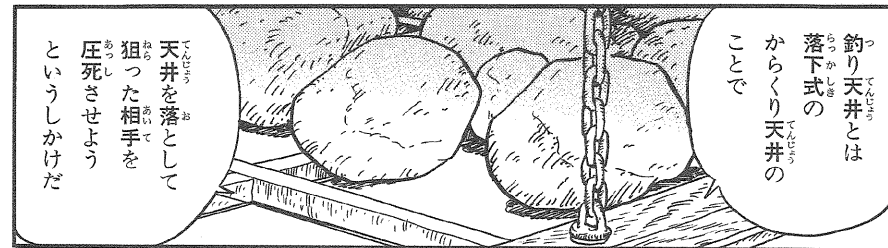
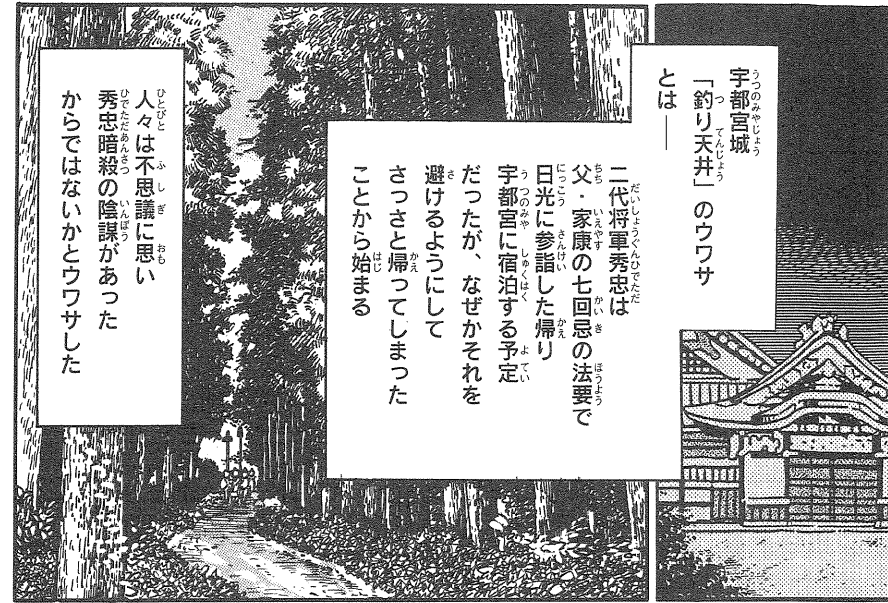
幕府よりの上使が
火急の用件ありと
まかりこしました！

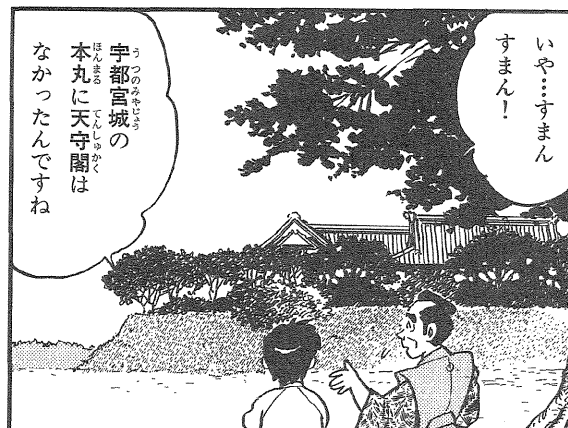
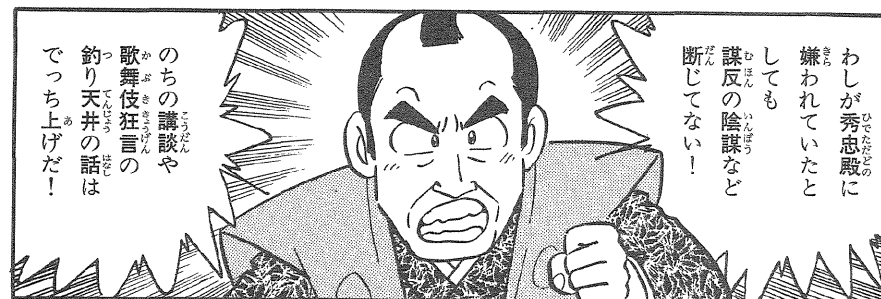
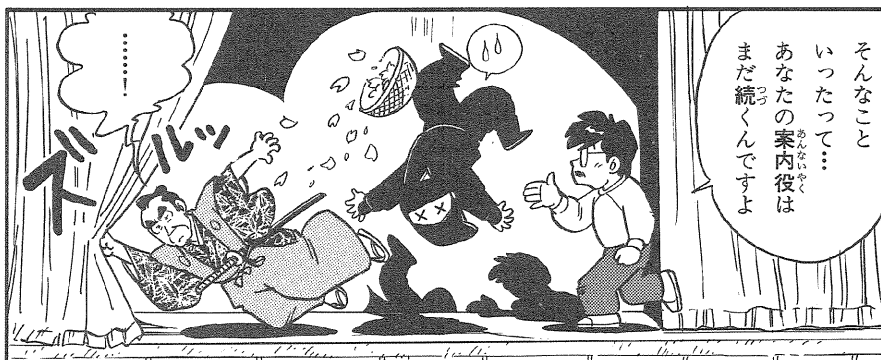
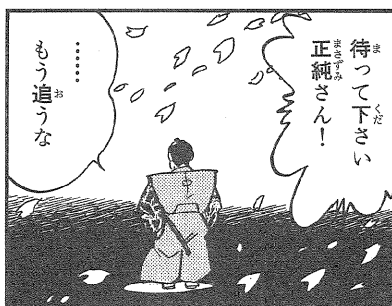
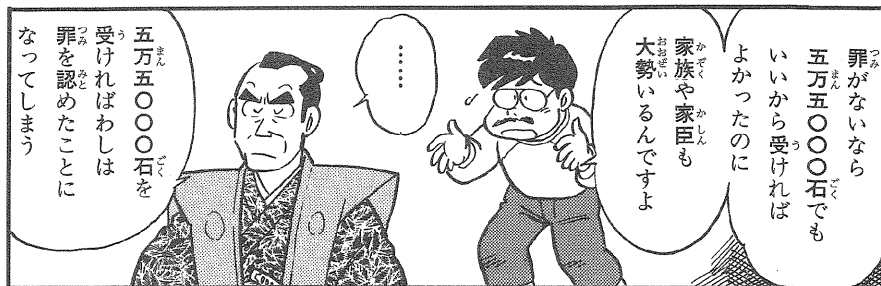


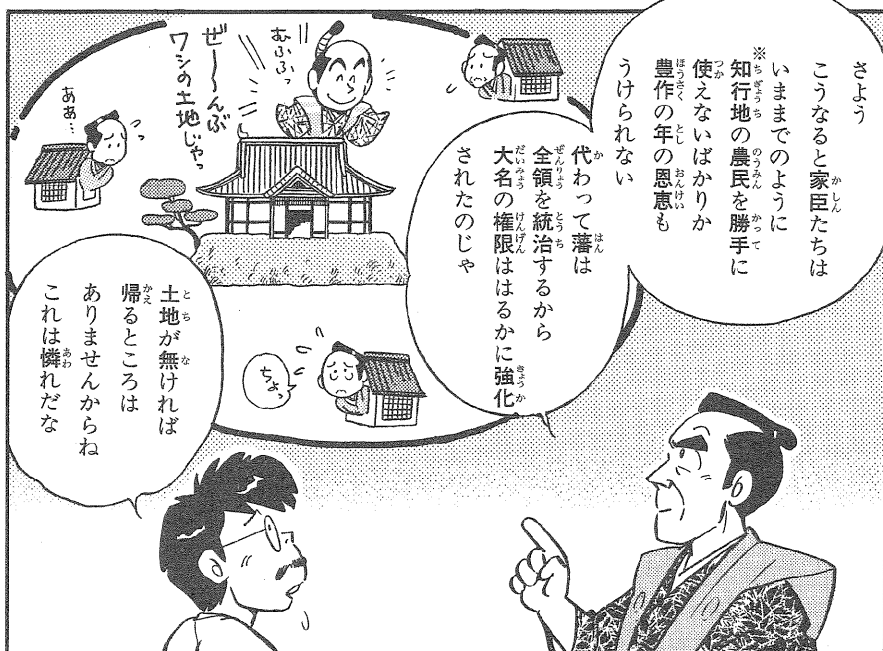
殿！

殿！







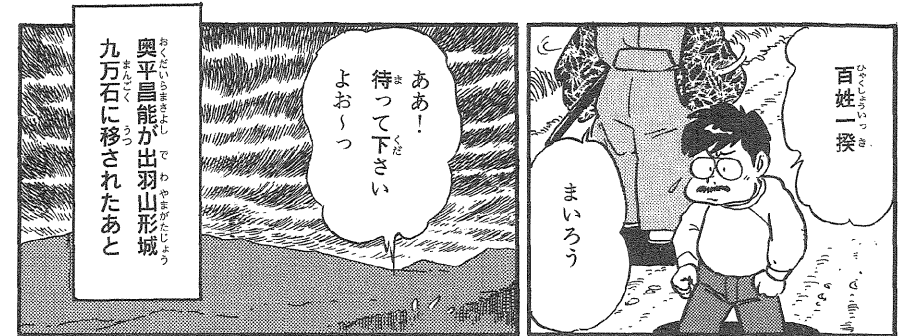
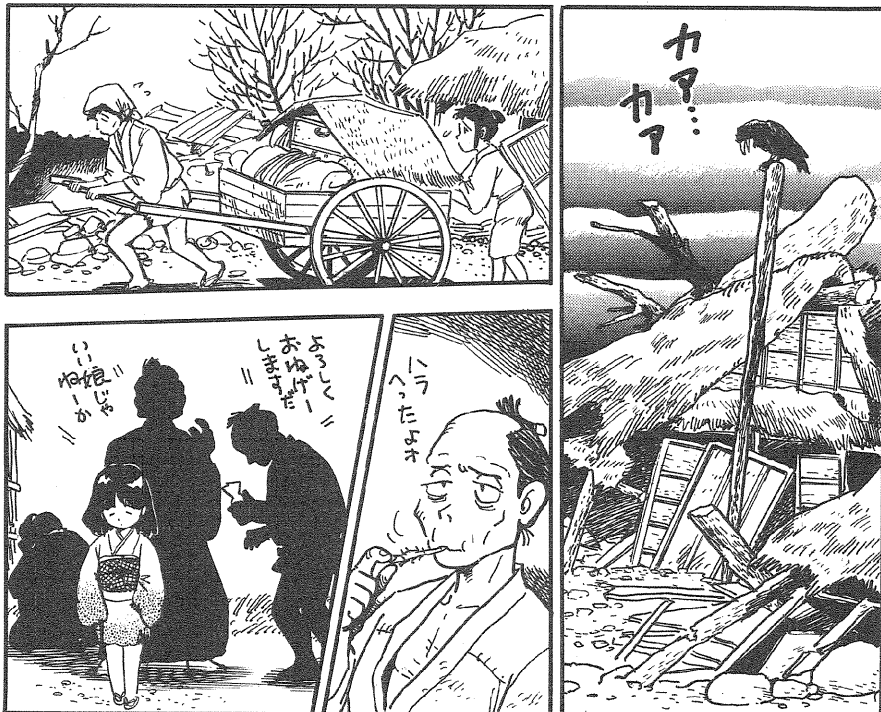
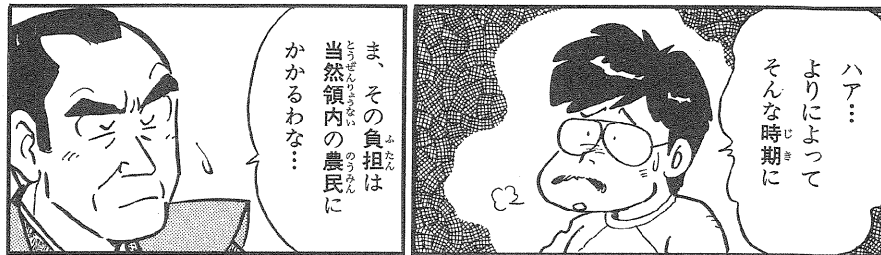
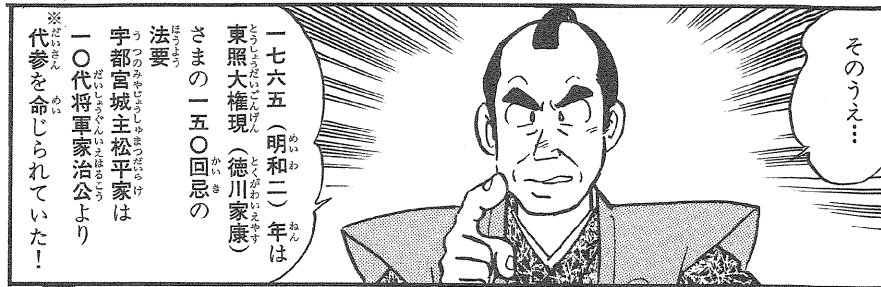


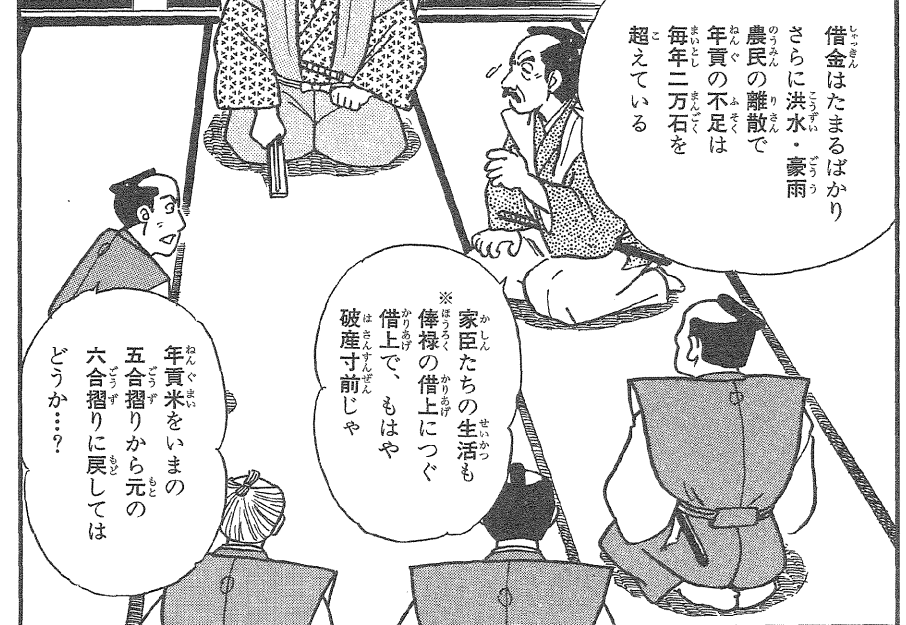
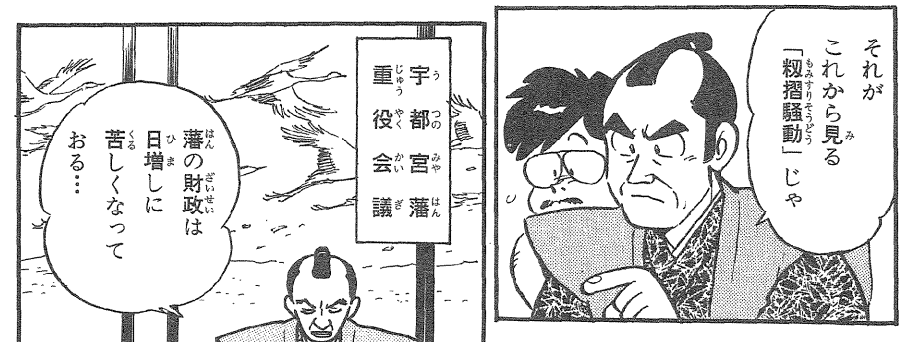
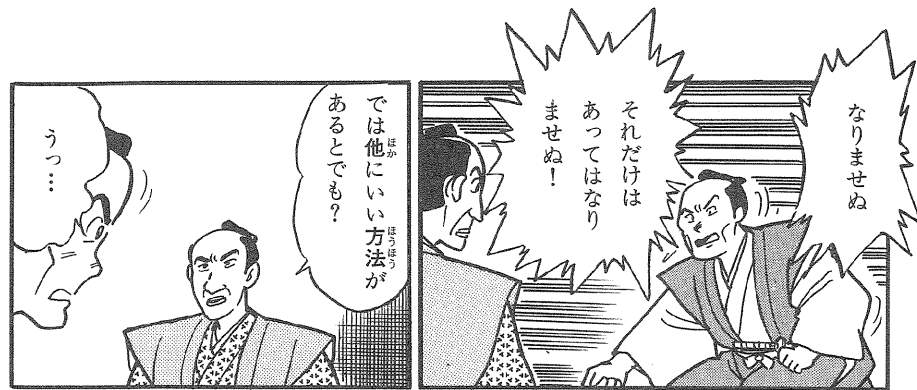
※知行…主人から与えられた土地と人民を支配すること

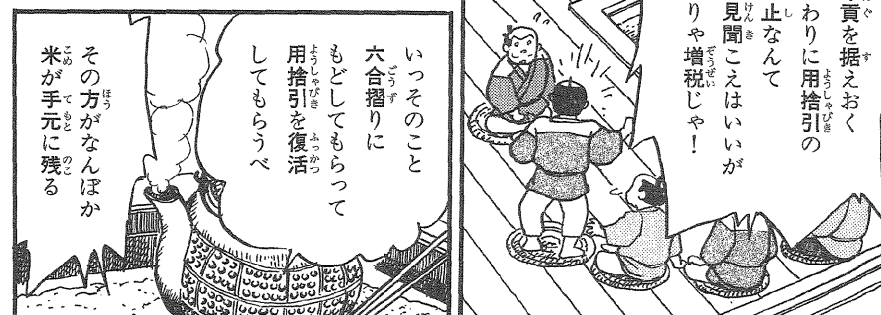
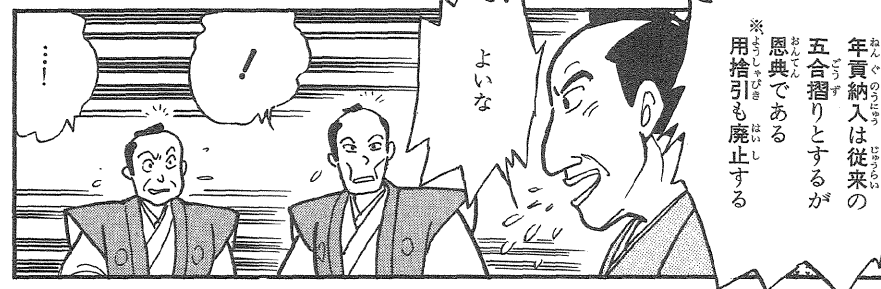
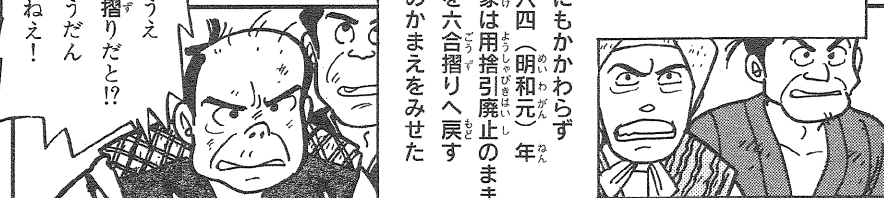
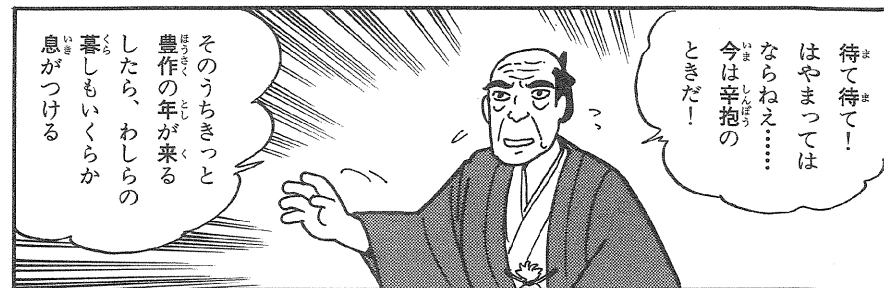


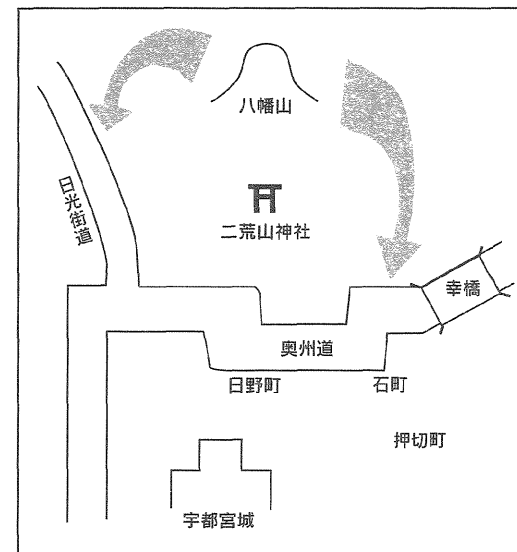
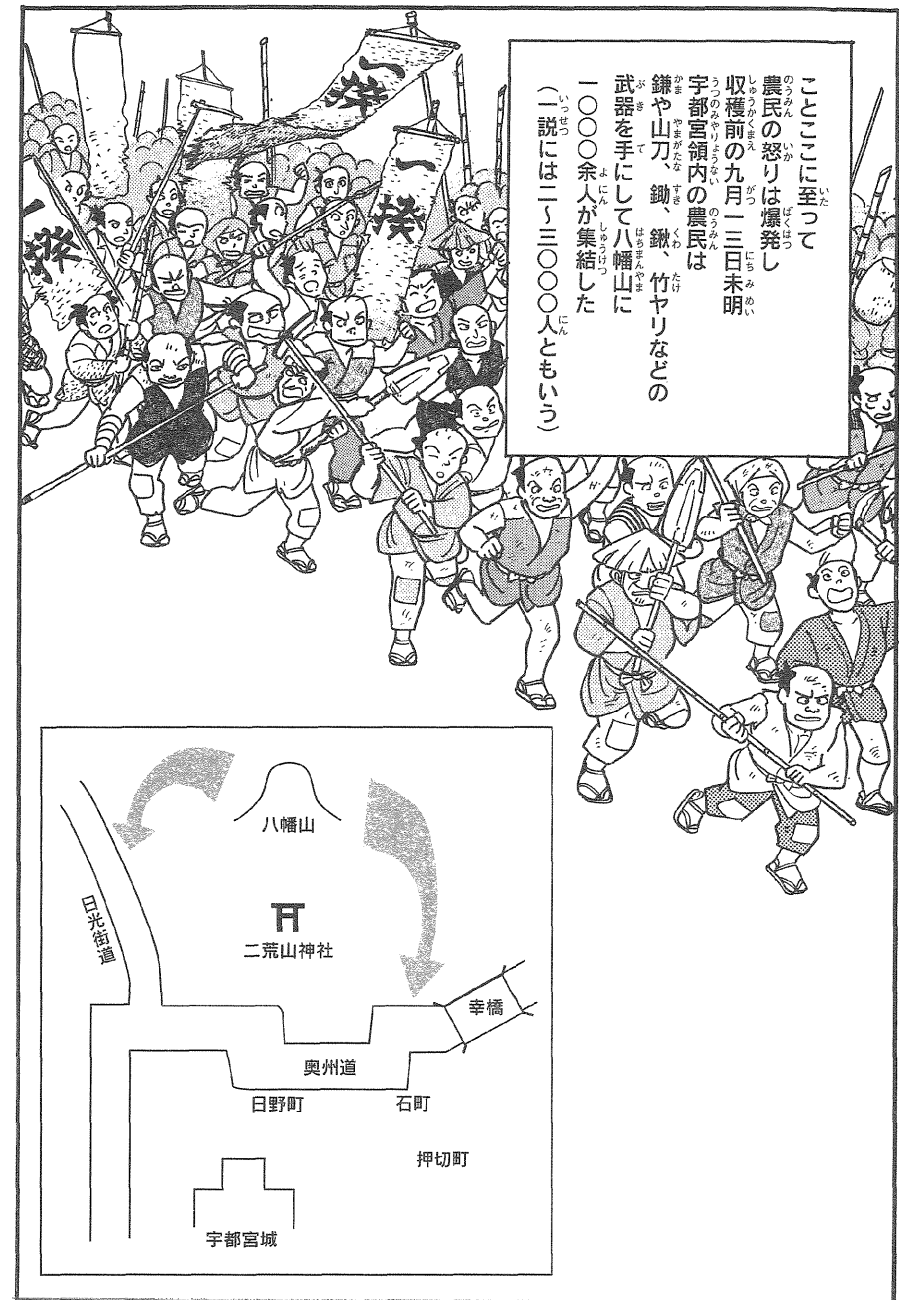
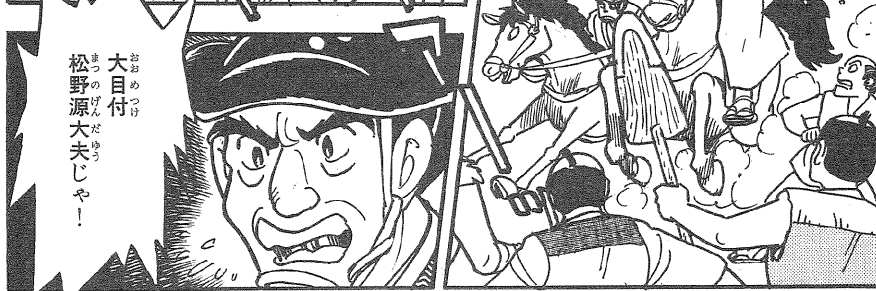
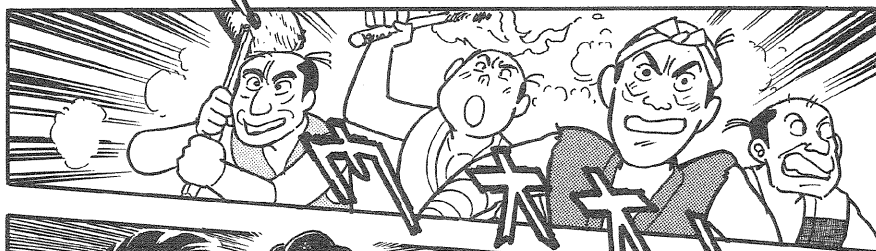
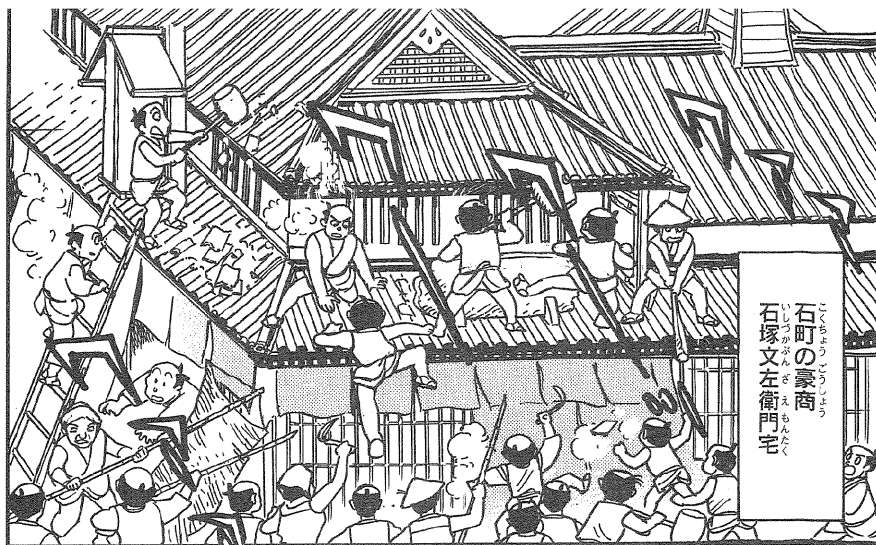
※七族五老…奥平氏創草期からの一族と譜代の重臣の俗称

※入封…大名が自分の領地に初めて入ること









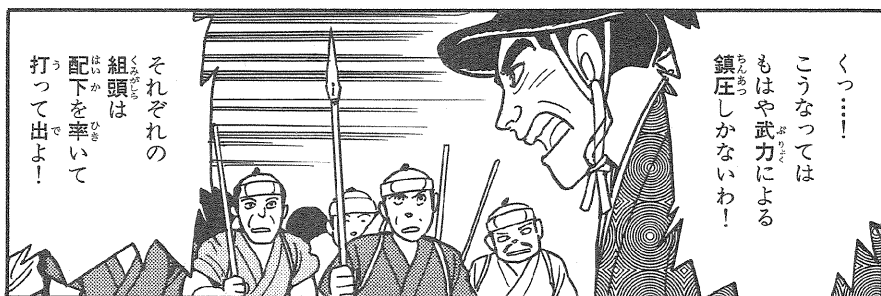


日野町に群がっていた一揆方はこの触れによっていったん退きかけたが

日光街道口では伝馬町の豪商平石屋清衛門宅佐野口(栃木街道)の篠元伝左衛門宅をはじめ次々に商家がおそわれ



下火になった石町押切町の一揆方も勢いをもちかえした



それぞれの組頭は配下を率いて打って出よ!

こうなつてはもはや武力による鎮圧しかないわ!



そのほうは?

長島村の庄屋鈴木源之丞といますだ



大目付様わしら農民の唯一の救いであつた用捨引は廃止そのうえさらに鞭うつ六合摺りの達しどうしてこれ以上の辛抱ができませんようかつ

わかる!

その方らの気持ちはよくわかる!



この度の願いの儀は松野源太夫の一命に代えて殿に申しあげる

それゆえ早々村々に引きあげ!

だが願いの儀はしかるべき手順を経て御上に言上すべきぞ!



宇都宮藩の裁き

●農民側の指導者を
竹林刑場にて斬首

長島村庄屋 源之丞 六五歳
上平出村庄屋 龜右衛門 二八歳
今泉村庄屋 吉右衛門 三三歳
今泉新田村庄屋 六平 四一歳

結局農民の悲願も
徒勞に終わったん
ですね

いや…松平家も後で
用捨引をふやすなど
農民にいろいろ譲歩
しているんじゃない



しかも、その後

一七七四(安永三)年四月九日
松平忠恕、肥前島原城へ国替え

あら？
また島原城へ
帰されたん
ですね



農民たちも
一矢報いたと
いうわけじゃ

昔に比べれば
農民の立場は格段に
向上している筈じゃよ



そりゃ
「まー」
そう言われれば
確かにそうですが



それにしても
割の合わない
一揆でしたねえ

いや
思い出してみよ



次は明治維新まで
宇都宮城主
であった戸田家じゃ

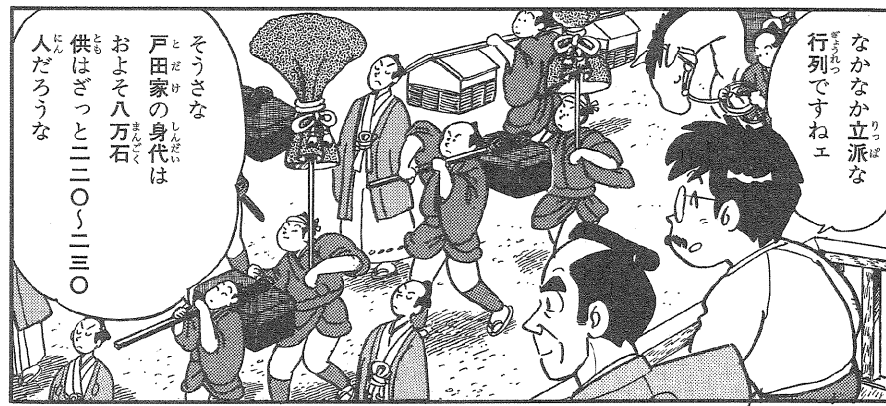
これでようやく
宇都宮藩の
藩政も安定する

藩主は
戸田忠寛

のちに寺社奉行
大坂城代から
京都所司代と
幕府の要職を
歴任する名君じゃ



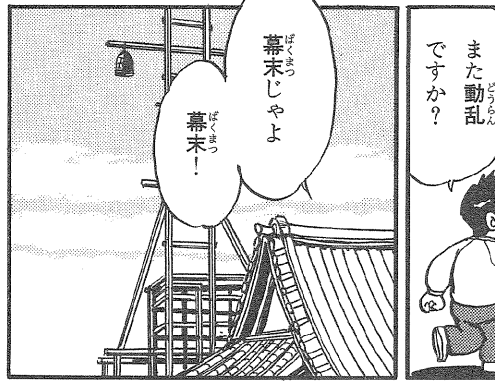
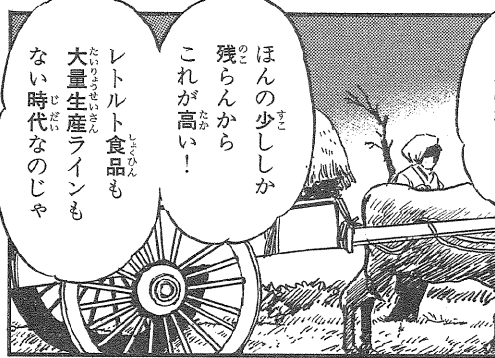
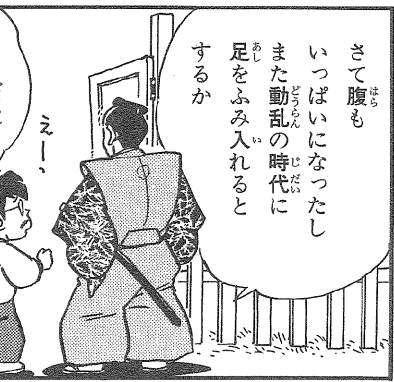
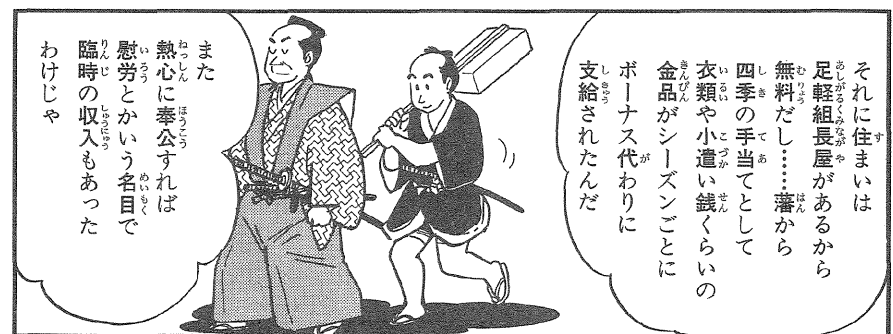
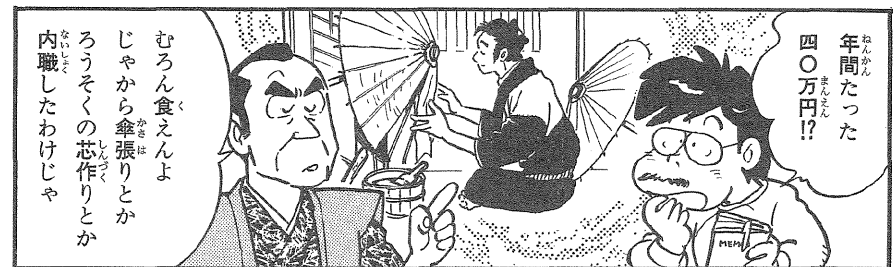
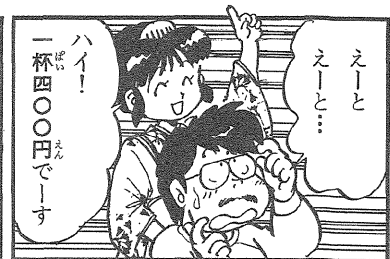
一七七四(安永三)年六月
戸田家の入城

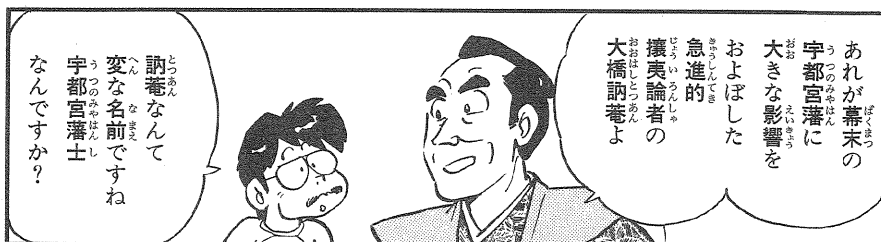
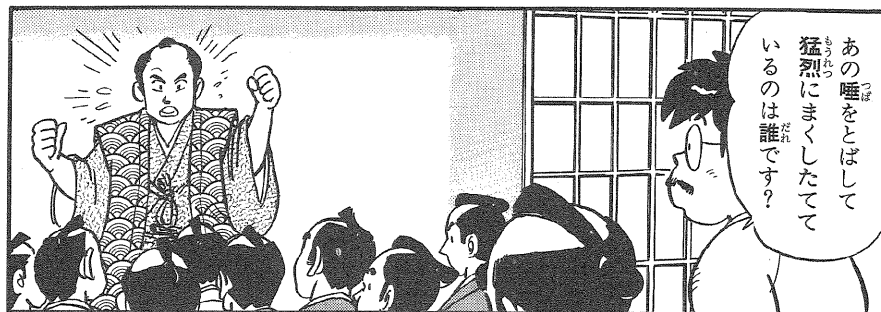


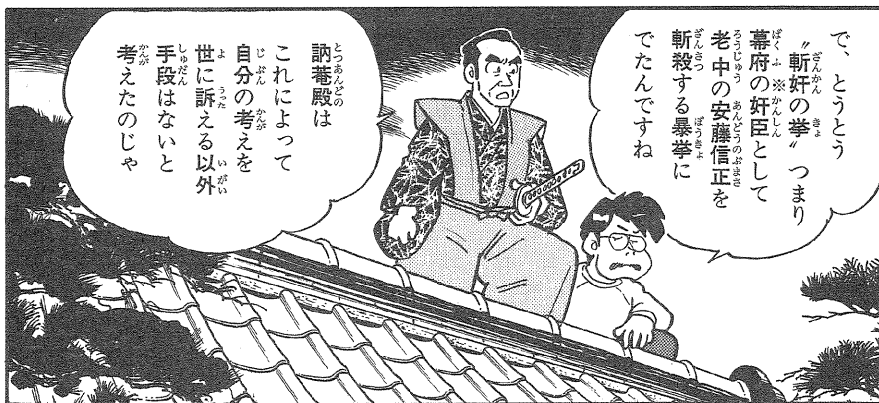
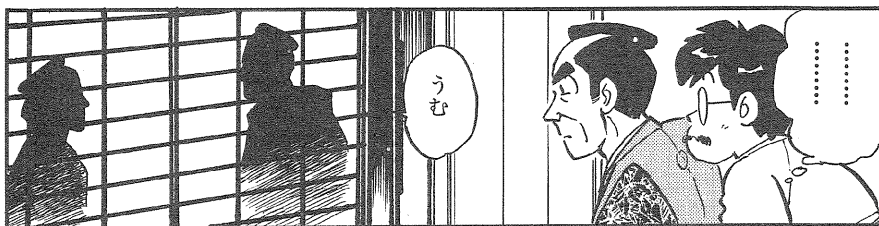
なかなか立派な
行列ですねエ

そうさな
とだけしん代は
戸田家の身代は
およそ八万石
供はざつと二〇〇二〇
人だらうな

※一人扶持・主君から家臣に支給する給与の基準。一人一日玄米五合を標準とし、一年分の米または相当の金銭をいう







※奸臣…主君のまわりにいる悪者、よこしまな家臣



一月一五日上元の佳節
江戸城坂下門外にて
老中安藤信正を
大橋訥菴の一派六名が
安藤を襲い負傷させたが
暗殺に失敗、六名とも
斬殺された



大橋訥菴は
この事件の数日前に
逮捕され
菊池教中ら攘夷派
グループも一斉に捕縛
された…

宇都宮藩では
家老の間瀬和三郎や
県六石らが
赦免運動を展開し
大橋訥菴は七月七日
菊池教中は七月二五日に
赦免された…しかし

数日後
二人とも病死した
いずれも拷問による衰弱が
たたったのだった



志こそ果たせなかつたが
訥菴たちの精神は
全国の勤王の志士を
ふるいたたせたのじや

一八六二（文久二）年
五月一四日
「坂下門外の変」後の
江戸宇都宮藩邸



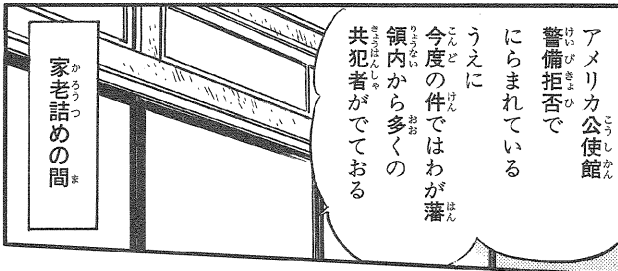
これは
困ったことに
なった…

訥菴さんは
「幕永上書」の
なかで次のような
ことを記していますね
「人心さえ
ひとつになれば
武器が不足しても
たとえ大砲がなくても
必ず勝てる」



幕末の志士たちは
みな、そうした
気持ちを持っていた
のかも…な

アメリカ公使館
警備拒否で
にらまれている
うえに
今度の件ではわが藩
領内から多くの
共犯者がでている



家老詰めの間

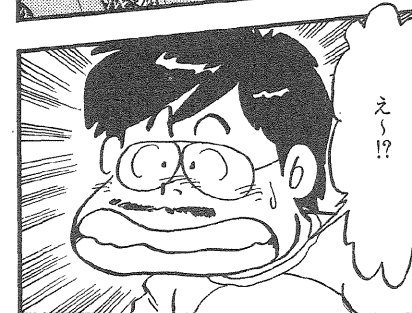
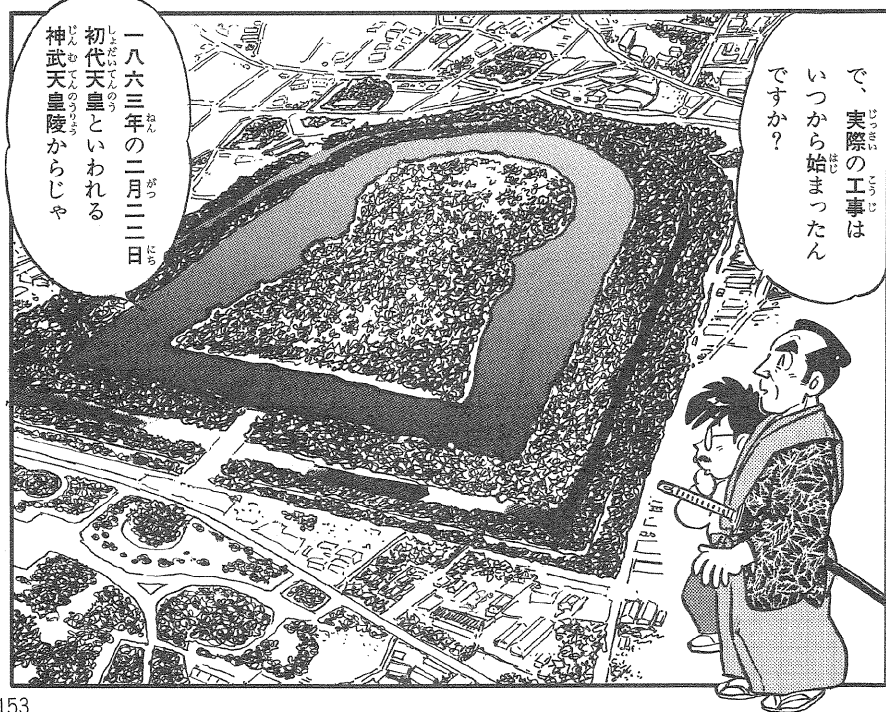
下手をすると
わが藩は取り潰しの
憂き目にあうぞ
なんとかせねば…

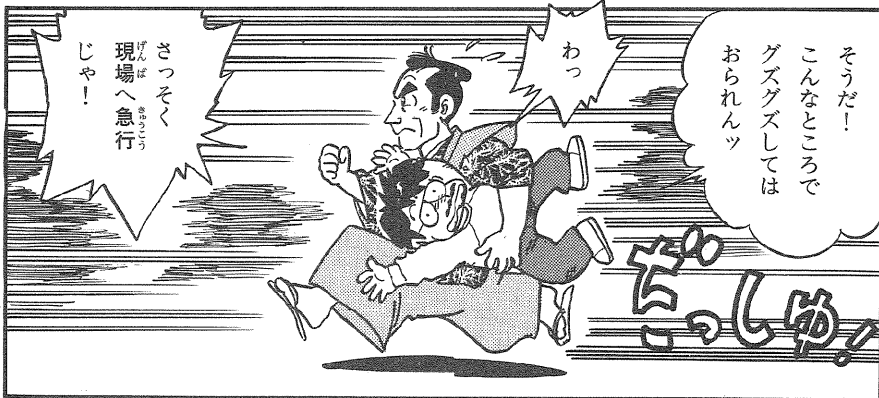
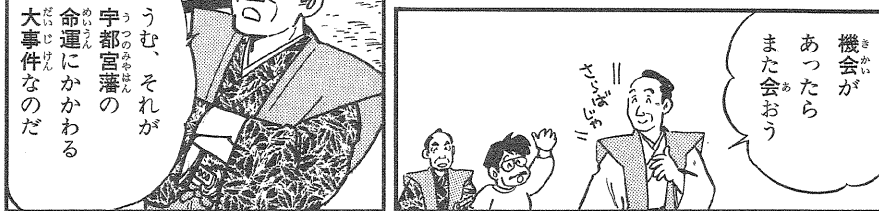
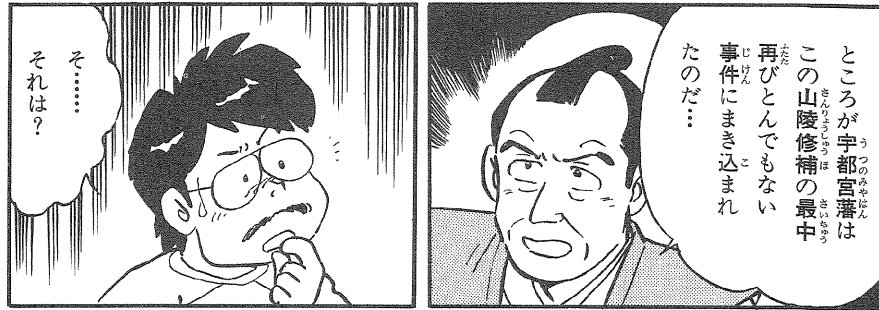
家老・間瀬和三郎

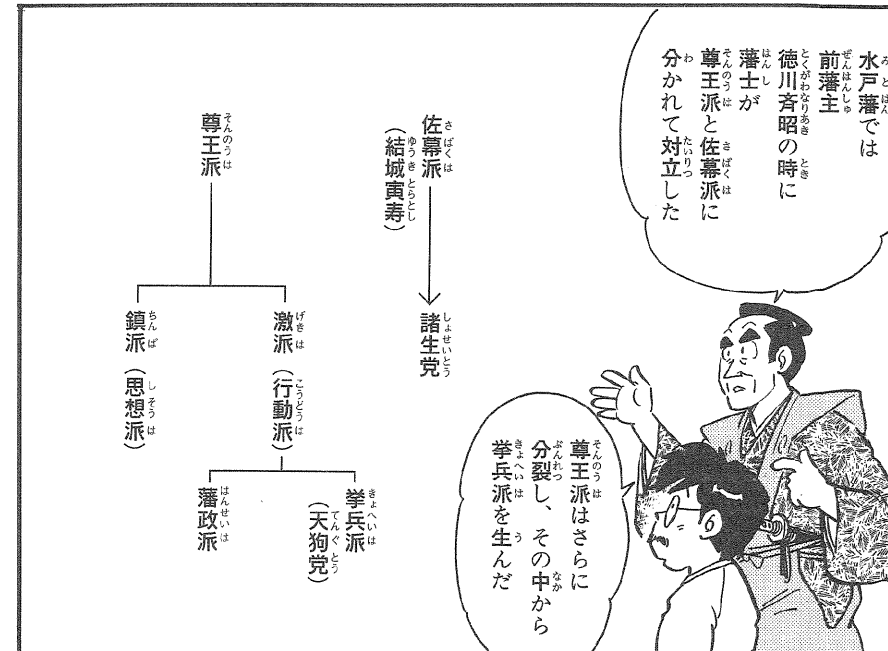
ここは何か
幕府を喜ばせ
恩を売ろうような
ことをするよりほか
ありません



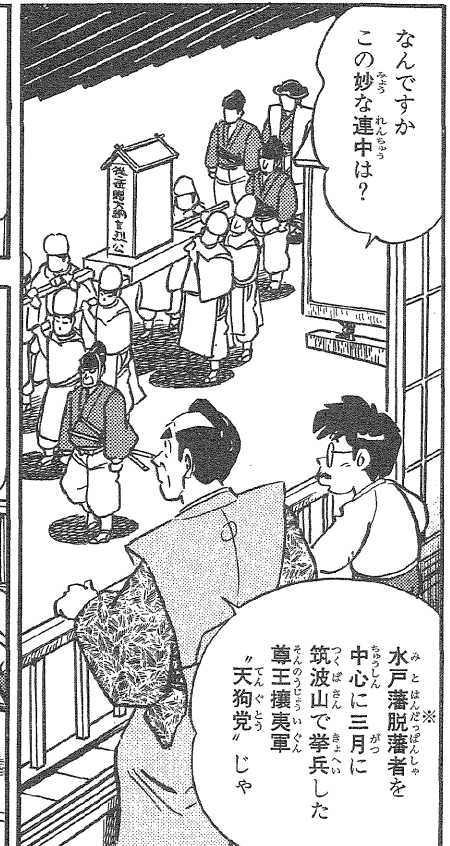
中老・県六石



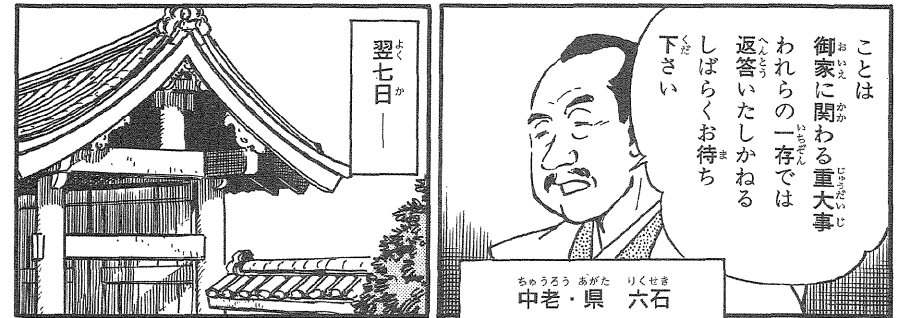


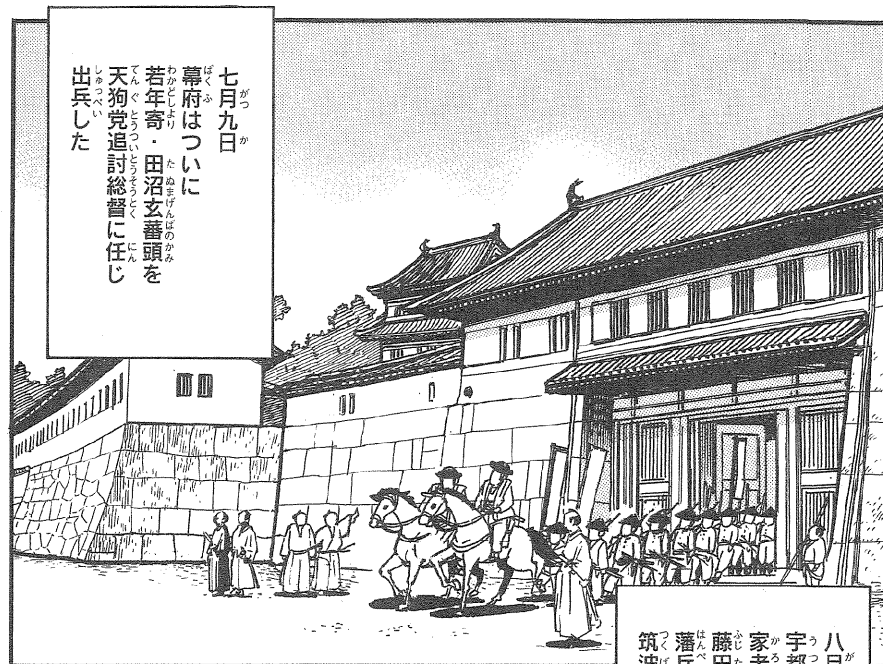


尊王派はさらに分裂し、その中から挙兵派を生んだ



※脱藩…武士が政治行動のため藩の所属を離れ浪人となること





七月九日
幕府はついに
若年寄・田沼玄蕃頭を
天狗党追討総督に任じ
出兵した

八月二日
宇都宮藩も出兵
家老、石原琢麿隊
藤田左京隊
藩兵四八三名が
筑波山に到着した



幕府はこれまでの
宇都宮藩の
にえくらぬ態度に
激怒した

ところが九月一〇日
あろうことが
宇都宮藩兵は
幕府に無断で
戦線を離脱...

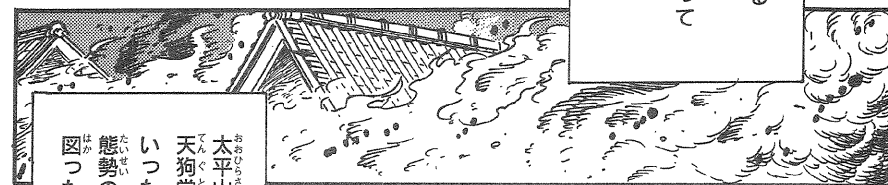


天狗党が
下野国でしたことって
いったい何だったん
でしょうね？
むう...
この挙兵をきっかけに
日本が事実上
無政府状態になった
のは確かじゃな



しかし日光山の
占拠はならず

各地の豪商への度重なる
軍用金要求や栃木町の
焼き打ち事件などによって
天狗党は急速に民衆の
支持を失っていった...



太平山に屯集した
天狗党は
いったん筑波山に帰り
態勢の建て直しを
図ったが—

天狗党の進行経路図

